

2015, 11. 21

ロシア国際大会報告

1. 大会日時・場所
2. 大会概要
3. 日本拳法大会
4. 大会結果

1. 大会日時・場所

2015年11月21日(土) (22日は国内大会開催)
於 ソルドゼストバ(Sodruzhestvo)体育館

2. 大会概要

大会名称	ロシア国際選手権大会
競技種目	形競技 ヌンチャク競技 日本拳法競技
参加人数	全体 420名(内 日本拳法 112名)

3. 日本拳法大会

競技種目		日本選手
男子	－65kg	16名 0名
	－70kg	16名 2名
	－75kg	16名 1名
	－80kg	16名 1名
	－85kg	16名 1名
	＋85kg	16名 1名
女子	－65kg	16kg 4名

4. 大会結果

日本人選手成績

	参加種目	成績
大貫洋平	－70kg	優勝
林 竜太	－70kg	準決勝敗退 (3位決定戦棄権)
近藤恭斗	－75kg	準優勝
今村 健	－80kg	準優勝
堀内将志	－85kg	優勝
秋葉洋一	＋85kg	優勝



日本人選手成績

	参加種目	成績
赤井 唯	女子	優勝
谷坂佳苗	女子	準優勝
千嶋純子	女子	第3位
近藤さゆみ	女子	予選敗退



大会感想

ロシア大会初参加の日本選手団が入場すると会場全体からどよめきと拍手が上がり、選手団に対する歓迎と期待がひしひしと感じられた。

予選は正午から始まったが、全員若干のルールの違いや審判の一本を取る基準の違いに戸惑いながらも順当に勝ち進んでいった。残念ながら－75kgに出場した林選手は準決勝で敗退し、その試合で若干足を痛めたので3位決定戦は辞退した。その他女子の部で近藤選手が予選敗退する番狂わせがあったもののほぼ全員が決勝戦へと駒を進めた。

決勝戦は18時30分から一般の観客をいれ、サムライショーと銘打ち開催される。そこで谷坂選手による「基本の舞」、赤井・近藤さゆみ選手、大貫・近藤恭斗選手による模範演武を披露した。

－75kg決勝は大貫選手は予選を危なげなく勝ち進んできたが決勝に来て相手から2本を取られながらも逆転勝ちで優勝した。ロシアでは3本先取勝ちのルールが採用されている。

－75kg級はヨーロッパチャンピオンで昨年総合選手権で39.6度の高熱を押し3回戦まで進んだアレクサンドル選手と近藤選手の試合となりお互い相手を警戒しながら最後は蹴りで優勝を逃した。

つづく－80kgも今村選手が星を落とした。

－85kg級では堀内選手が得意の組み打ちでロシア選手を制し優勝する。

+85kg級では秋葉選手が投げの態勢に入ったところを相手のロシア選手が後頭部を乱打するという反則行為に出てそのまま失格となった。なお、昨年総合選手権に出場し、ベストエイトまで勝ち残ったアルトゥール選手は準決勝で敗退した。

女子は赤井、谷坂の日本人同士の対決となり赤井が3本を先取し完全勝利した。

大会の感想については日露交流センターにレポートの抜粋を別紙に掲載するので参照していただきたい。

土橋且浩

ロシアで迎えた3日目、露日日本拳法交流大会に参加させて頂くことができた。開会式では、日本から来た私たちを心から歓迎して下さっていることが、会場全体から伝わってきて非常に感動した。試合の合間にも数多くのロシアの方が声をかけて下さった。同じ武道を志す者同士、言葉の壁も全く感じず、まるで昔からの仲間のようにすぐに打

ち解けることが出来た。この大会で演武をさせて頂くことになっていた私は、夜も眠れないほど緊張していたのだが、思いもかけないあたたかな会場の空気に包まれ、今までになくリラックスした気持ちで臨むことができた。会場で出会った人の中には、日本で武道を学んだという方、是非日本に行ってみたいという方が思いのほかたくさんおられ、その強い情熱に驚かされた。武道を通じ、たった1人の交流が10人、100人と、どんどん大きな輪に広がっていることも肌で感じる事が出来た。

大会に関しては、ロシアに日本拳法が紹介されてそれほど年月がたっていないにも関わらず、試合内容は非常にレベルが高く、ロシアの方々による演武の数々も息を飲むような素晴らしさだった。さらに日本拳法の技術だけでなく、武道の精神、さらには日本の文化まで含めて、自分たち日本人以上に深く理解しようとされていることが非常に印象的であった。こうしたロシアの方々の姿勢から私たちが学ぶべきことがたくさんあるように感じた。

谷坂佳苗

日本拳法ロシア大会での交流について

日本選手団は岩尾団長の元結果よりも試合前後での立ち振る舞い等(試合前後礼や相手を思いやる心、力の誇示等サムライ魂の見本となるように)ロシアの修練者の見本になるように意識していた為反則や卑怯な行為は全くなく、ロシアの修練者はスポーツの意識でなにをしても勝てばいいんだと意識が強く多数の反則行為や勝利した後のガッツポーズなどありました。

試合終了後ロシアの修練者達が日本選手権団の元に集まって来てあなた達はクリーンな戦い方で強いと集まってきてその中で日本拳法が何故頑丈な防具をつけているのか等相手がいるから自分が強くなれる、相手を怪我させたり馬鹿にしても意味が無いことを伝え特に良かった事は決勝戦で私と戦った選手が私との戦いでは大観衆の中で我を忘れ反則行為の連発で反則負けで表彰式もふてくされ武道の心が微塵も無かったのですが試合後彼と話し合いあなたは身長2メートル近くあり力も技もあるのだから正々堂々自信を持って戦えば私よりも強いはずだと話して宥めたところ、次の日のロシア選手権で正々堂々とした戦いで反則なしで優勝し私の所へ優勝トロフィーを嬉しそうに持ってきたのが一番印象に残っています。

秋葉洋一

11月21日は、日本拳法日露交流大会でした。

ロシアの日本拳法の競技人口は約2万人を超えると聞いてはいましたが、それを垣間見る瞬間でした。また、前日にも感じていたのですが、ロシアの方々の日本拳法に対する情熱は我々日本人よりも上回るのではと思えるほどでした。日本で発足した日本拳法をこれほどまで愛し真剣に取り組んでおられる姿を見て、日本人として胸が熱くな

る思いでした。また、武道を通して拳を交え相手に礼を尽くすことで言葉や人種の壁など乗り越えられるのだなと強く感じました

赤井 唯

